

第 12 回 新宮ダムの堤体挙動等に関する技術検討会 審議結果

日時：令和 2 年 1 月 21 日（火）13:00～15:00

場所：大阪コロナホテル 別館 2 階 200BC 会議室

出席：阪田憲次座長，鎌田敏郎委員，河野広隆委員，佐竹正文委員，金銅将史委員
渡辺博志委員，石神孝之委員

資料：資料 1 第 11 回検討会の議事録

資料 2 洪水吐きゲートの操作性について

資料 3 門柱基部の補強対策について

資料 4 今後のモニタリングについて

審議内容

1. 堤体挙動について

平成 27 年 2 月施工のダム天端橋梁を利用した暫定的な変位抑制工については、その後の堤体挙動モニタリングの結果から、ゲート門柱の変位進展に対する抑制効果を発揮しており、ゲートの操作性は確保されていると考えられる。しかしながら、変位の進展は継続しており、また、ゲート門柱の基部の一部に新たな変状が確認されている。よって、2. に示す補強対策工を実施するとともに、引き続き状況を注視していく必要がある。

2. ゲート門柱基部の補強対策について

ひび割れ等の変状が発生しているゲート門柱基部を鋼材等で補強する安全対策工の基本設計は適切であり、それによりゲート門柱の安全性は当面確保されることが考えられる。

3. 恒久的な対策について

平成 27 年施工の変位抑制工および今回提案された補強対策工は、当面のゲート門柱の安全性やゲートの操作性の確保のための暫定的な対策である。従って、今後、モニタリングにより対策工の効果を見極めつつ、必要に応じて恒久的な対策の検討を進める必要がある。

以 上